

ベルリン自転車展 (Berliner Fahrrad Schau) 参観報告

本展は昨年より開始され2回目の開催となった。会場は市内中心部にあるが閑静な地域であり、鉄道の高架下にある倉庫等を再利用した場所であった。当日は来場者の熱気につつまれていた。

【Berliner Fahrrad Schau】

主催： PREMIUM Exhibitions GmbH

会場： STATION-Berlin

会期： 2011年3月5日(金)～6日(日) 10:00～18:00

入場者数： 未公表 ※3/18現在

出展社数： 75社 ※ホール図より集計



会場入口



ホール内の様子



イベントコーナー (左; BTR、右; BMX)

同展の主な出展社は、シングル・スピードのトラックレーサーやシティ車を得意とする小規模な新興ブランドが多く、現在、ドイツ市場で手広くトレッキング車やスポーツ車を手掛ける大手の有名ブランドはごく少数であった。また、現在、ドイツでブームの電動アシスト自転車 (EPAC) もほとんど見られなかった。イギリスのロンドンと同様にベルリンではシング

ル・スピード車、特にトラックレーサーが人気を博しているが、このような展示会が開催されるほど、これらの車種に特化した企業や小売店が存在することは予想外であり、その人気ぶりを改めて実感した。

また、会場には自転車の他に従来のサイクリング用の機能的なウェア類とは違う、カジュアル衣料のTシャツ、帽子等もあり、独自のファッションやスタイルとの強い結びつきも感じた。更に展示スペースの隣には広々としたイベントコーナーがあり、BTR、MTB、BMX などを楽しむ人々の姿も多くみられた。



各小間で見られたシングル・スピード車

参加者はトラックレーサー等の愛好者と思われる比較的年齢の若い層が多かった。各出展ブースでは、くつろいで歓談する和やかなムードも漂い、従来の自転車の展示会とは違った趣があり、大変に興味深い開催内容であった。なお、日本から輸入された競輪等で使用された中古フレームもいくつか見られ、更に出展車両の一部には日本の金属製部品も使われており、ベルリンにはシングル・スピード車向けの一定の需要があることも十分に伺われ、ベルリンとロンドンの同車種の動向にはこれからも注目したい。

ベルリンで今月下旬に、2009年11月に「Fahrrad Markt Zukunft」として開催された自転車展「VELO Berlin」も開催予定である。

参考； ベルリン市内小売店調査

市内自転車店舗を訪問する機会を得たので報告する。

同店は市庁舎の近くに位置する中規模店でドイツ東部州を中心に全国に 11 店舗展開している。そのうちの 1 店が、先日開催されたエッセン自転車展の出展社であった。シティ車、トレッキング車はダービーサイクルの FOCUS やカルクホフを中心に店内に 30 台、フレームは北部や東部のユーザーの好みである黒色が多かった。MTB やロードレーサーのスポーツ車は FOCUS、スペシャライズドにキャノンデールが一部加わり 30 台ほど見られた。また店頭には 200～300 ユーロ（22,800～34,200 円）程の目玉商品として特価車を陳列し、更にシュワルベのタイヤチューブ自販機が屋外に設置されていた。



調査店舗



屋外に陳列された特価車

以上
(デュッセルドルフ事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。

